



8月の園だより

令和5年 8月 1日
目黒区立ひもんや保育園長

セミの鳴き声が園庭に響き渡ったある日、5歳児クラスの子どもたちは田向公園に虫網を持ちセミ取りに出発しました。ところが田向公園の木の高いところに留まっていたり捕まえられず、その代わりセミの抜け殻をたくさん集めて戻って来た子どもたちです。今、幼児クラスはいろいろな生き物を飼っていて、4、5歳児クラスの子どもたちはカブトムシに夢中です。朝、昼とカブトムシの飼育ケースの周りに集まって、カブトムシを持ち上げたり、動く様子をみたりしています。指につかまらせて「痛いけど、大丈夫なんだよ」と持てることを誇らしげに話しています。蝶の幼虫やカマキリなども世話をしながら触れ、夏ならではの光景ですが命に触れる機会を大切にしたいと思っています。

水遊びやプール遊びも始めて一か月が経ちました。プールを怖がっていた子も少しずつ少しずつ慣れてきています。「足まで入ったよ」「今日はここまで（あごまで）つけられたよ」「ワニ泳ぎできたよ」「潜れたんだよ」と一人一人できるようになったことは違いますが、とても嬉しそうです。楽しみながら苦手なことにも挑戦して、自信をつけている子どもたちです。

8・9月の行事

8月 プール閉まい
身体計測・避難訓練
9月 引き渡し訓練



栽培活動 ～幼児クラス～

一番甘い

おいしい味がする

葉っぱがチクチクする



たんぼぼ組

【きゅうり収穫】

自分たちで育てたこともあり、きゅうりが苦手の子も「保育園のきゅうりは食べられる」と言って食べていました。

こすもす組【トマト収穫】

トマトが苦手な子も一口は食べてみたり、収穫を喜び、自分たちが育て上げたトマトを堪能していました。次の収穫も楽しみにしています。



これ枝豆みたい



いっぱい採れた

ひまわり組【いんげん収穫】

一人3、4本の収穫を3回も経験しました。

給食では子どもたちの意見で『炒める、ゆでる、揚げる』で食べました。

採れたてだからか、臭みも少なく「おいしい」と普段食べない子もおかわりをしていました。

水遊びの様子 ～乳児～

今年の夏は暑い日が多く、
乳児クラスも毎日のように
水遊びを楽しんでいます。

つくし組(0歳児クラス)

水の張ったタライに腕を伸ばし、水面に自分の指先がついて波紋やユラユラ揺れる様子に「アッ」と指を差して“なんだ、これ”と言うかのように保育士にも知らせてくれます。今度はバシーンと自分で水面を叩き、しぶきがはねて足や顔にかかるとその冷たさにハッとして保育士を見るので、保育士も同じようにすくった水を手足にかけて「つめたいー」と驚いて見せると、子どももにこっと笑顔を見せてくれました。その後はタライに手首までつけて勢い良くかき混ぜしぶきをあげて楽しんでいるので保育士も「バシバシ面白いね」と同じようにしぶきをあげたり水の流れを見たりして楽しみました。子どもたちは“びっくりした”“これなに”など感じたことをいろいろな表情で伝えてくれています。その思いを保育士が汲み取りながら見守っていきます。

すずらん組(1歳児クラス)

園庭で思い切り泥や水で遊んでいたこともあり、水遊びも毎日楽しめています。保育士がホースで水を出したり、水のトンネルを作ったりすると、最初は水の勢いにびっくりしていましたが、慣れてくるとホースからの水を触ろうとしたり、容器に水を入れようとしています。でも、容器に水が当たってしぶきが顔にかかることは嫌なので、顔を背けながら必死に手を伸ばしています。慣れてくると顔にかかることも気にせずホースに向かって来て、ずぶ濡れになるのを楽しむ子どもでできました。頭から水を浴びているので、被っていた帽子の上から水が流れ、帽子のつばから滝のように水が滴ってくると、その様子を不思議そうにじっと見たり指で触ってみたいしていました。偶然できた水の流れなど、子どもたちの気付きや発見したことを保育士も一緒に楽しんでいきます。

ちゅういっぷ組(2歳児クラス)

「今日お水するの」と毎朝楽しみにしています。タライの水が空っぽになるまでひたすら水を汲んでは足元にかけていた子どもが、保育士に「冷たいよ、先生も手を入れてみて」と言うので、腕をタライに全部入れてみせると、“先生、何て言うかな”というように顔をじっとみつめています。「気持ち良いね。(タライの)中に入りたくなっちゃったね」と言うと、「ダメだよ。パンツ(の着替え)ないでしょ」と言うので、思わず一緒に笑っていました。

別の日には、ひさしにタライの水の揺らぎが映って揺れていることに気付いた子が「ねえ見て、何か」とつぶやくと、賑やかだった他の子どもたちも静まりかえり、しばらくの間みんなでキラキラと揺れる光の様子を見つめていました。水を身近に遊ぶ子どもの気づきを共有したひとときでした。友達と一緒に全身で水遊びを楽しんでいる中で子どもたちが感じていることに心を寄せ、面白がっていきたいと思います。